

恐らくこれが読まれる頃には、この文章も何かの一部になっているのでしょう。しかし、せめて、こちらでも文章を残しておかなければなりません。

紙媒体で印刷されたものであれば、少なくともこの紙に印刷されていることが変わることはない。

周りのあらゆることが変わってしまったとしても、今、ここで紙に書かれた情報に関しては、ひとりでに消えたり変化したりはしない。

だから今のうちに、私が伝えられるだけの情報を提供しておきます。今こうして考えながら書いていることなので、どこまで精確な文章にできるかは分かりませんが。

まず、こちらの文章を読んでください。

※加筆が確認された場所は転載者により赤字で着色

【リビジョン1】

イルカになったまあちゃん

定期的にネット掲示板や匿名アップローダで出回っていたという、30秒程度の動画。初出の具体的な日時や、当該動画の具体的な撮影場所は不明。廃墟と思しき無人の団地の中庭或いは駐車場で、「まあちゃんはイルカになってしまいました」という言葉を発し続ける中年女性を、定点カメラで撮影している。

女性の口調は非常に平板なもの（いわゆる棒読み）で、その口調や表情などから感情を窺い知することは難しい。

【リビジョン2】

イルカになったまあちゃん

定期的に**2ちゃんねる**や**AXfc uploader**、**ぞくろだ**などで出回っていたという、30秒程度の動画。初出の具体的な日時や、当該動画の具体的な撮影場所は不明。廃墟と思しき無人の団地の中庭或いは駐車場で、「まあちゃんはイルカになってしまいました」という言葉を発し続ける中年女性を、定点カメラで撮影している。

女性の口調は非常に平板なもの（いわゆる棒読み）で、その口調や表情などから感情を窺い知することは難しい。

終盤、同様の発言を続ける女性の背後、団地の一階にあるひとつの窓いっぽいに、乳白色でひどく目の離れた人間の顔が映り込み、動画は終了する。

【リビジョン3】

イルカになったまあちゃん.avi

定期的に2ちゃんねるやAXfc uploader、ぞくろだなどで出回っていたという、30秒程度の動画。初出の具体的な日時や、当該動画の具体的な撮影場所は不明であるが、**周囲の暗さなどから夕方或いは夜のはじめごろだと思われる**。廃墟と思しき無人の団地の中庭或いは駐車場で、「まあちゃんはイルカになってしまいました」という言葉を発し続ける中年女性を、定点カメラで撮影している。

女性の口調は非常に平板なもの（いわゆる棒読み）で、その口調や表情などから感情を窺い知することは難しいが、**「見ているとなぜか焦燥感／恐怖感を覚える」などと話す人が一定数存在する**。

終盤、同様の発言を続ける女性の背後、団地の一階にあるひとつの窓いっぽいに、乳白色でひどく目の離れた人間らしきものの顔が映り込み、動画は終了する。

【リビジョン4】

イルカになったまあちゃん.avi

定期的に2ちゃんねるやAxic uploader、ぞくろだなどで出回っていたという、30秒程度の動画。初出の具体的な日時や、当該動画の具体的な撮影場所は不明であるが、周囲の暗さなどから夕方或いは夜のはじめごろだと思われる。廃墟となった無人の団地の中庭で、「まあちゃんもイルカになってしまいました」という言葉を発し続ける中年女性を、定点カメラで撮影している。

女性の口調は非常に平板なもの（いわゆる棒読み）で、その口調や表情などから感情を窺い知るのは難しいが、「見ているとなぜか焦燥感／恐怖感を覚える」などと話す人と、「全く怖くない、意味不明な動画」と話す人の両方が一定数存在する。

終盤、同様の発言を続ける女性の背後、団地の一階にあるいくつかの窓いっばいに跨るように、乳白色でひどく目の離れた人間らしきものの顔が映り込み、動画は終了する。

【リビジョン5】

イルカになったまあちゃん.avi

定期的に2ちゃんねるやAxic uploader、ぞくろだなどで出回っていたという、30秒程度の動画。少なくともWinnyやP2Pが流行していた時代には動画の存在が知られていたとされる。

初出の具体的な日時や、当該動画の具体的な撮影場所は不明であるが、周囲の暗さなどから夕方或いは夜のはじめごろだと思われる。廃墟となつてしまった無人の団地の中庭で、「まあちゃんもイルカになってしまいました」という言葉を発し続ける中年女性を、定点

カメラで撮影している。

女性の口調は非常に平板なもの（いわゆる棒読み）で、その口調や表情などから感情を窺い知るのは難しいが、「見ているとなぜか焦燥感／恐怖感を覚える」などと話す人と、「全く怖くない、意味不明な動画」と話す人の両方が一定数存在する。

これは、当時に「死霊（エネミー・ピリン）¹」の動画や「硬化（アップロード者不明）」の動画などの詳細不明の不気味な動画が、ネット掲示板や個人サイトを中心に流行していたためであろうと思われる。

終盤、同様の発言を続ける女性の背後、団地の一階にあるいくつかの窓いっばいに跨るように、乳白色でひどく目の離れた人間らしきものの顔が映り込み、動画は終了する。

¹ 動画内で言及される「十万人にありがとう、もれなくギロチンプレゼント」という文言でも知られる

【リビジョン6】

イルカになったまあちゃん.avi

定期的に2ちゃんねるやAxic uploader、ぞくろだなどで出回っていたという、30秒程度の動画。少なくともWinnyやP2Pが流行していた時代には動画の存在が知られていたとされる。

初出の具体的な日時や、当該動画の具体的な撮影場所は不明であるが、周囲の暗さなどから夕方或いは夜のはじめごろだと思われる。廃墟となつてしまった無人の団地の中庭で、「まあちゃんもイルカになってしまいました」という言葉を発し続ける中年女性を、定点カメラで撮影している。

女性の口調は非常に平板なもの（いわゆる棒読み）で、その口調や表情などから感情を窺い知ることは難しいが、「見ているとなぜか焦燥感／恐怖感を覚える」などと話す人と、「全く怖くない、意味不明な動画」と話す人の両方が一定数存在する。

これは、当時に「死霊（エネミー・ピリン）¹」の動画や「硬化（アップロード者不明）」のGIFなどの詳細不明の不気味な動画が、ネット掲示板や個人サイトを中心に流行していたためであろうと思われる。

終盤、同様の発言を続ける女性の背後、団地の一階にあるいくつかの窓いっぱいに跨るように、乳白色でひどく目の離れた人間らしきものの顔が映り込み、動画は終了する。

なお、「**まあちゃん後半含むavi**」という**42秒の動画も、動画交換用掲示板「Magic country（通称まじかん）」においてサムネイルのみ確認されている。**

¹ 動画内で言及される「十万人にありがとう、もれなくギロチンプレゼント」という文言でも知られる

明確におかしいと思ったのがいつからなのかは、定かではありません。私はネット上でページ作成や編集を行うことができるウィキのようなページを運営しており、特にオカルトや都市伝説に関する情報を広く集めていました。例えば「検索してはいけない言葉wiki」では、新たな「言葉」のページを新規作成して説明文とともに匿名で掲載することが可能ですが、当サイトではそうしたことがあらゆるネットロアで可能であった、という認識で問題ないと思います。

そうしたユーザ投稿サイトの性質上——例えばアトムやホラーレーがそうであったように、運営が少し目を離れた際に荒らしページが作られることは日常茶飯事でした。

「死ね」というタイトルのみで本文が一字も書かれていないページや、有名なコピーの設定を一言二言だけ改変しただけの「新作記事」など。あからさまに空虚なページはできる限りこまめに削除していましたが、逆に言えば微に入り細を穿つような校正を各記事に施すことはできませんでした。

要は、記事の体裁を為しており、ある程度の情報量が認められる記事であれば、信憑性に拘らず一応は残しておく。そういった運営方針を取っていました。都市伝説やネットロアの「信憑性」を論じるときほど面倒な時間はありませんから、そうしてある程度の落としどころをつけておく必要があったのです。

そんなあるとき、ウィキ管理者への問い合わせフォームに、ある記事に関する連絡が届きました。それは「イルカになったまあちゃん²」というタイトルの記事に関するもので、そこに紹介されている事象やソースを基にどれだけ検索しても、元情報が見つからない、というものでした。

その記事を通読してみると、（匿名のネット記事にしては、さすが）ある程度客観的な記述がなされており、一見すると情報の瑕疵などは見つからないように思えました。

しかし、まず「イルカになったまあちゃんavi」という動画は、一切の実在が確認できませんでした。

さらに、よく読んでみると、その他にも記事の所々におかしな「嘘」が紛れ込んでいるのです。

例えば、類似の事例として挙げられている「死霊（エネミー・ピリン）」は嘗て実在したサイトや動画群として知られているのですが、「硬化」なる動画やサイトには全く覚えがありませんでした。

こういうサイトを運営している関係上、人よりも遥かに多くのネットローアを知っていて、仮に知らなかったものであっても、それを調べるノウハウはそれなりにある筈なのに。

また、2ちゃんねるやAXFc uploader（通称斧ロダ）は実在が確認できるのですが、「ぞくろだ」という俗称で使われていたツールやアップローダは、現存するどのサイトや掲示板でも確認できませんでした。

正直なところ、「ネット上に全く情報のない都市伝説」が掲載されること自体は、それほど珍しいことはありません。個人の記憶にのみ残っている不思議な出来事でもネットローアにはなり得ますし、もし単に架空の都市伝説を紹介する記事が作成されたとしても、恐らく私は内容が面白ければリジェクトはしなかっただろうと思います。

しかし。その記事は、単に虚偽のネットローアを紹介するのではなく、虚偽の傍証を紛れ込ませた本文をもとにして、虚偽のネットローアを紹介していました。その構造が何となく、気持ち悪かったのです。

うまく言えないのですが——「虚偽のネットローア」を囿にして、その前提となる「虚偽の傍証」の方を、違和感なく信じさせようとしているような。

本当は後者を信じさせるのが主目的ではあるのだけれど。敢えて「あからさまに大きな嘘」に注目させて、その前提となる小さな嘘だけでも——逃がそうと、しているような。そんなイメージが湧いたのです。

単なる事実の捏造ではなく、既成事実の捏造が、行われていました。

とりあえず私は、この記事の作成者を特定しようと思いました。ページの管理権限は運営者である私にあり、リビジョン（編集履

歴）もこちらで確認することができました。そのため、同一ユーザが同じようなページを幾つも作成していたとしたら、今後のことを考え、何らかの処置を施す必要があります。

そして表示されたのが、あの編集履歴でした。リビジョンはその時点で6まであり、つまり「リビジョン1（新規）」のページが作成されてから、五回の加筆修正が行われていることを示しています。私は、そこに表示されている情報を見て、愕然としました。すべての記事編集が、それぞれ違うユーザによって行われていたのです。存在しないネットローアに関する記事の、存在しない傍証を含む説明文を、全く違うユーザが各々で詳細に加筆しあつて完成したのが、あの記事でした。

勿論、加筆時のIPアドレスなどを変更することで、同一人物が複数のユーザを装った加筆をすることも可能ではあります。しかし、いち一般人が運営する小さなウィキの片隅にあるひとつの記事に対して、そこまでの匿名化を施すとは考えづらいでしょう。

仮にそんなことをする特定のユーザがいたとしても、そんな架空記事を作成することの不可解さが軽減するわけありません。

しかも、その時点で最後の編集、つまりリビジョン6でなされた加筆では。

なお、「まあちゃん後半含む.avi」という42秒の動画も、動画交換掲示板「Magic country（通称まじかん）」においてサムネイルのみ確認されている。

このように線が引かれており、その部分に施されたハイパーリンクから、「Magic country（通称まじかん）」という匿名掲示板の説明記事に遷移できるようになっていました。そして、そこで説明されている「Magic country（通称まじかん）」という掲示板も、

現状では存在が確認できていません。

こんなことは日常茶飯事であるはずなのに、とても怖くなってしまうのです。

世間で出回っているネットローアは、どこからどこまでが、事実性（事実ではなく事実性）に基づいているものなのでしょうか。その事実性の保証は、誰が何に基づいて行ってくれるのでしょうか。

事実性を保証してくれるものは——参照可能な一次ソースの存在でしょうか。だとしたら、もう参照手段が存在しないパソコン通信時代の噂などは、そもそもネットローアとして「存在しない」ことになってしまいます。

では、それを「記憶している人」の存在でしょうか。例えば村の古老が口伝で伝承する噂のように、それを記憶し伝える人の存在が確認できれば、その噂は一応の事実性を担保されるのでしょうか。でも、さきほど少し調べてみて気付いたのですが、

そうしたユーザ投稿サイトの性質上——例えばアトムやホラーテラーがそうであったように、運営が少し目を離れた隙に荒らしペーじが作られることは日常茶飯事です。

私が「過去に存在したホラー投稿サイト」として思い出せるものを列挙したこの文章。「ホラーテラー」は確にかつての实在が確認できたのですが、「アトム」はどこを探してもログが見つかりませんでした。

書きながら、とても混乱しています。でも書くしかありません。確かに私の記憶にはあったのです。「創作怪談投稿 アトム」というヘッダーと、黒背景に赤文字と白文字で構成されたテキストサイト。

ユーザが自由に感想コメントを残すことができたから、秀逸なホ

ラー作品には幾つもの感想が残されていて、それを読みながら交流するのが楽しくて、実際当時の洒落怖スレにも、それこそホラーテラー初出の「禁后」や「リアル」が転載されたように、幾つかの代表作が転載されて沢山のレスが付いていたはずです。

「車と鳩」や「誰かの両手」、「フレア」などの名作が生まれて、私も何度も読み返したはずなのですが、今これらの作品ログを検索するのが私はとても怖いのです。もしこれらが全部存在しないとしたら、私はどうすればいいのでしょうか。いや、どうしようもないのでしょうか。これまでのネットローアがずっとそうだったように、嘘も本当も存在しない世界を、これからも傍観していくしかないのでしょうか。

話が逸れました。申し訳ございません。

私は、これからも生まれ続けるであろう幾つもの怪談が、それらが生まれ続けるであろうことそれ自体が、とても怖くなってしまう、だからこの文章を書いています。

恐らくこれが読まれる頃には、この文章も何かの一部になっているのでしょうか。しかし、せめて、こちらも文章を残しておかなければなりません。

紙媒体で印刷されたものであれば、少なくともこの紙に印刷されていることが変わることはない。

周りのあらゆることが変わってしまったとしても、今、ここで、紙に書かれた情報に関しては、ひとりでに消えたり変化したりはしない。

だから今のうちに、私が伝えられるだけの情報を提供しておきます。この状況をどうにかしてほしいからとまではありません。これを拡散することに何らかの呪術的な意味があるからとかでもありません。

私だけがこの恐怖を抱えていることに耐えられないからです。